

南三陸町復興への歩み

防災

～多久市と南三陸町との“絆”～



た。人材なくして復興進まず”という切実な実情を鑑みて、南三陸町への職員派遣を決定しました。少しでも支えになったのであれば良かったです”と話しました。

東日本大震災の復興のため、多久市では人的復興支援として2012年10月1日から南三陸町へ職員の派遣を行ってきました。

佐藤町長は「7年間にわたる職員派遣に大変感謝しています。みなさんの支援がなければ、とうてい復興事業は実現できませんでした。あと2年で公共施設や防潮堤等が完成する見込みとなっております」と横尾市長に、これまでの感謝の意を伝えられました。

横尾市長は「震災から1年5か月後に現地を訪問しましたが、苦難の真ただ中であることを痛感しました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町に対し、多久市は職員の派遣を通じ復興支援にあたってきました。

1月21日(月)、南三陸町の佐藤仁町長が支援のお礼に多久市を訪問され、復興の様子と防災の重要性を横尾市長と懇談されました。今回はその内容を紹介します。

多久市ではこれまでに職員11人を派遣してきました。

2015年10月には多久市からの提案で、災害時における相互応援協定を南三陸町と締結し、職員の派遣や食料の提供、被災者の受け入れなどを相互に応援する体制を整えました。

佐藤町長は町役場も壊滅的な被害を受けた状況を振り返り「行政機関が全ての住民に対応できるとは限りません。自助、共助の体制づくりが重要です」と強く話されました。

横尾市長は「災害が発生した際のことを想定し、事前対策を講じ、被害を最小限におさえる事前復興が重要。他人事ではなく、自分のこととして捉え、防災に取り組んでいきます」と応え、両市町の“絆”を再確認しました。



▶災害時における相互応援協定の締結式の様子（平成27年10月6日）